2009/10/16

日本分析化学会第 58 年会

日本分析化学会第 58 年会が 2009 年 9 月 24 日～26 日に北海道大学高等教育機能開発総合センターにて開催された。年会では一般講演（口頭、ポスター）、受賞講演、特別シンポジウムなどに加え、日本分析化学会にある 13 の研究懇談会が主催する講演も行われた。

「表示・起源分析技術研究懇談会」では、東京工業大学大学院の吉田尚弘氏と農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所の安井明美氏（当懇談会委員長）に講演を依頼し、24 日 16：00～17：00 に講演が行われた。ほぼ同じ時間帯に 8 つの懇談会の講演が同時に行われる予定となっており、どのくらいの聴講者になるか不安を抱く中、東京電機大学の保倉明子氏を座長として講演が始まった。当懇談会が発足して始めての年会での講演であったため、まず、安井委員長より当懇談会の紹介が行われた後、講演となった。

【表示・起源分析技術研究懇談会講演内容】

座長：保倉明子氏（東京電機大学工学部）

講演 1 ：アイソトポマーの自然存在比計測による起源推定

吉田尚弘氏（東京工業大学大学院総合理工学研究科）

安定同位体元素の組み合わせによる多数の相互に異なる分子種であるアイソトポマー（isotopomer; 同位体置換分子種）の自然界での存在度が持つ、物質･分子の起源に関する質的情報に着目した物質循環に関する研究の成果が述べられた。

講演 2：無機元素組成による農水産物の産地判別法の展開

安井明美氏（農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所）

JAS 法によって義務付けられている原産地表示の信憑性を確認する方法の一つである農産物中の無機元素組成の分析に関して、ネギ、タマネギや黒大豆（丹波黒）などの例を挙げ、その研究の成果が述べられた。

講演後、会場からは米などの農産物のブランドを守る為の技術開発などの要望があり、起源推定に関する分析技術とその範囲拡大への期待が感じられた。最後に安井委員長から 2009 年 11 月 17 日に開催予定の第 2 回講演会についてのアナウンスがあり、演題募集と参加を呼びかけた。併せて会場内にチラシと申込書を置いた。講演開始時点では少ない聴講者であったが、続々と集まり、最終的には 50 名前後となっていた。7 月に行った講演会の参加者数までとはいかなかったが、開催場所やプログラムを考えると立ち上げたばかりの年会としては上々だと思う。この懇談会の目的は食品のみならず、様々な分野での表示・起源に関わる方々が参加し、情報交換することである。今回の年会では食品関連の方の参加が多かったように感じたが、今後は日本分析化学会のみならず多方面で当懇談会をアピールし、規模の拡大と活動の充実を図って行きたい。

［株式会社ファスマック　原口浩幸］